

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成20年5月29日(2008.5.29)

【公開番号】特開2006-301093(P2006-301093A)

【公開日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-043

【出願番号】特願2005-119727(P2005-119727)

【国際特許分類】

G 0 3 G 9/08 (2006.01)

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

G 0 3 G 9/09 (2006.01)

G 0 3 G 9/087 (2006.01)

G 0 3 G 9/113 (2006.01)

G 0 3 G 15/08 (2006.01)

【 F I 】

G 0 3 G 9/08 3 6 5

G 0 3 G 9/08

G 0 3 G 15/20 5 0 5

G 0 3 G 15/20 5 1 0

G 0 3 G 9/08 3 6 1

G 0 3 G 9/08 3 3 1

G 0 3 G 9/10 3 5 1

G 0 3 G 9/08 3 8 1

G 0 3 G 15/08 5 0 7 L

G 0 3 G 15/08 5 0 7 X

【手続補正書】

【提出日】平成20年4月14日(2008.4.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 2】

(i) 前記トナーの重量平均粒径が 4 ~ 9 μ m であり、(i i) 前記トナーの円相当径 3 μ m 以上の粒子の平均円形度が 0 . 9 2 0 ~ 0 . 9 6 0 の範囲であることを特徴とする請求項 1 乃至 1 1 のいずれかに記載の画像形成方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 0 8 】

本発明のトナーは、示差走査熱量分析(D S C)測定における吸熱曲線において、温度 3 0 ~ 2 0 0 の範囲に 1 個又は複数の吸熱ピークを有し、該吸熱ピーク中の最大吸熱ピークのピーク温度が 6 0 ~ 1 0 5 の範囲にあることが好ましく、特に好ましくは 7 0 ~ 9 0 の範囲である。最大吸熱ピークのピーク温度がこの範囲にあれば、優れた低温定着性と現像性とのバランスが良好となる。最大吸熱ピークのピーク温度が 6 0 未満であるとトナーの保存安定性が劣る場合があり、1 0 5 を超えると省エネの観点から望まれる

低温定着を行うことが困難となる場合がある。なお、最大吸熱ピークのピーク温度を60～105とするには、前述した最大吸熱ピークのピーク温度が60～105のワックスを、トナーに含有させることにより達成可能である。